

4 調査研究業務の概要

平成 26 年度実施課題一覧

①保健関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
地域保健情報の解析、評価及び活用に関する研究	健康・生活習慣に関する情報を用いた健康増進に係る基礎的研究	特定健診、保健指導、健康栄養調査を代表とする健康に関するデータを収集し、それぞれのデータから福岡県の健康に関する現状の分析や要因の推定を行った。平成26年度は、DPC (Diagnosis Procedure Combination; 診断群分類) に基づく包括評価の資料を用い、DPC参加医療機関におけるがん診療とがん登録届出実態について検証した。	24-26年度	P12
	がん検診受診率向上に向けた効果的方策の検討	平成26年度は、福岡県内60市町村に対し、市町村のがん検診実施体制についてアンケート調査を行い、受診率向上に影響があるとされている取り組みの実施状況を明らかにした。	25-26年度	P12
感染症の発生及び食品の安全性確保に関する研究	<i>Escherichia albertii</i> の新生物型に関する研究	平成 26 年度は、鶏肉、スプラウト食品等からの本菌の分離を試みた。その結果、鶏肉が本菌の人への感染原である可能性を示した。	25-27年度	P16
	非 0157 腸管出血性大腸菌の病原因子に関する研究	平成 26 年度は、主要な 3 血清群 (0157、026、0111) 以外の菌株 140 株について薬剤感受性試験及び薬剤耐性遺伝子の検出を行った。	25-27年度	P16
	Multiplex Real-Time SYBR Green PCR を用いた食中毒細菌の網羅的検出法の改良・応用	平成 26 年度は、3 種類のコントロールプラスミドの構築、グラム陽性菌の DNA 抽出効率の向上・効率化の検討を行った。この方法で原因物質が特定できない食中毒疑い事例の糞便から粘液胞子中遺伝子を検出した。	25-26年度	P16
	福岡県におけるロタウイルス流行実態解明に関する調査研究	県内で流行しているロタウイルスを把握するため、検出されたロタウイルスの遺伝子型を調査した。その結果、平成26年度はG1P[8]型、G2P[4]型、G3P[8]型の混合流行と考えられる。	24-26年度	P18
	呼吸器感染症の網羅的マルチプレックスPCR法の実践的応用と改良に関する研究	平成26年度は、ヒトメタニューモウイルス検出プライマーの改良を行った結果、サブタイプAに加えてサブタイプBの検出が可能になった。	24-26年度	P18

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による健康被害の防止とその対策に関する研究	油症等のダイオキシン類による人体影響と遺伝要因の解明に関する研究	福岡県を中心に発生した油症をはじめとするダイオキシン類のヒトへの健康被害及び次世代への影響における遺伝要因との関係を解明し、行政対応のための科学的データ蓄積に資する。	25-27年度	P20
	残留性有機化学物質(POPs)による食品汚染実態と摂取量把握に関する研究	人体への影響が懸念されている残留性有機化学物質(POPs)として、農薬や臭素系及び塩素系の難燃剤などが注目されており、これらの化学物質に関する食品の安全性を把握するため、分析法検討、汚染実態調査及び一日摂取量調査を行う。	26-28年度	P20

②環境関係

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
ダイオキシン類、有害化学物質による環境汚染の防止とその対策に関する研究	有害化学物質の迅速スクリーニング法の開発	化学汚染に係る従来の分析方法では、有害化学物質を網羅的に計測するような手法は確立されていない。本研究では、マイクロ波技術を駆使して、環境試料中有機汚染物質および重金属類の同時スクリーニング法の開発を行う。	25-27年度	P14
大気環境の保全に関する研究	福岡県の環境活用資源等の潜在力調査	福岡県の環境資源を特定し、それを利用した二酸化炭素吸収効果、環境大気汚染物質吸収効果及び省エネルギー効果等を計算することにより、今後の市町村の循環型社会推進計画や環境政策の基本資料とする。今年度は、2市町村の評価を試みた。	25-27年度	P12
	福岡県における微小粒子状物質(PM _{2.5})濃度の実態把握と影響評価	PM _{2.5} に含まれる成分は、成分濃度及び濃度比から発生源の特徴が認められ、汚染の指標になることが考えられることから、本研究では福岡県でPM _{2.5} 中の質量濃度及び成分濃度を測定し、実態を把握するとともに、気象解析等により影響を評価する。	25-27年度	P22
	大気汚染物質の山地における植生影響に関する研究	ブナ林植生が存在する英彦山及び脊振山において、オゾン等の大気汚染物質調査及びブナの衰退度調査を実施し、大気汚染と植物衰退との関連について検討する。	24-26年度	P22
	新しい放射性セシウム吸着材の開発及びその評価と利用に関する研究	新しいセシウム吸着材（活性化雲母鉱物 Activated Micaceous Mineral : AM [®] ）の量産化と造粒化を実施した。製造した円柱状吸着材及び顆粒状吸着材の崩壊度と硬度を計測し、汚染水処理装置への適用性とSr及びCsに対する高い吸着能並びに機能性を確認した。	25-27年度	P22

研究分野	研究課題名	研究概要	研究期間	掲載頁
水環境の保全に関する研究	アオコ抑制技術のマイクロシスチン汚染への影響調査	富栄養化した湖沼では様々なアオコ抑制対策が行われている。本研究ではアオコ対策がマイクロシスチン汚染へ及ぼす影響を検討するとともに、汚染拡大を引き起こさないアオコ抑制技術を検討する。	24-26年度	P24
	湖沼・河川水中の硝酸イオンの再生可能な除去法の開発	市販されている陰イオン交換樹脂と土壌に水を加え、アセチレン阻害法により脱窒を確認した。	25-27年度	P24
	農薬の河川への流出実態の解明	農薬散布から1ヶ月以上の期間にわたって、水田および河川において農薬のモニタリングを実施し、実測値と農薬登録基準値及び水産PECとの比較を行った。	26-27年度	P24
廃棄物の適正処理と有効利用に関する研究	最終処分場関連水における有機物指標等の特性と適正管理に関する研究	最終処分場の浸出水において、BODのみ特異的に高値を示すことがあり、その要因として硝化細菌由来のN-BODによる影響が疑われている。本研究では、最終処分場関連水の水質特性調査、N-BODの変動要因の解明、硝化細菌の影響を迅速に評価する測定方法を検討する。	26-28年度	P26
自然環境と生物多様性の保全に関する研究	英彦山ブナ林生態系における生物多様性の保全と再生	英彦山ブナ林は、台風被害等によりブナの衰弱・枯死が進み、最近ではシカの食害により林床植生が貧弱化している。このような生態系の劣化が進行している英彦山ブナ林を対象に総合的な生態調査を実施し、ブナ林生態系の保全と再生の方向性を検討する。	25-27年度	P28
	福岡県における侵略的外来種の定着状況把握とその影響評価	福岡県の地域性をふまえて、特定外来生物の指定種に加えて法的には規制されていない侵略的外来種を含めたリスト（外来種ブラックリスト：仮称）を作成する。また、抽出された外来種が生態系等に与える影響を評価し、カテゴリー区分することにより、優先的に対策が必要な種を整理し、多様な主体による計画的な防除等の外来種対策に資する。	26-28年度	P28
	福岡県生物多様性戦略推進のための生物多様性指標の開発	福岡県生物多様性戦略において、都市や河川、ため池、水田、森林等の生物多様性の状況がわかる指標を開発し、市町村やNPO等が行う生物多様性評価や取組の進捗状況の把握等を支援し、保全の取組を促進することが記されている。そこで、本研究では、基礎的データ収集に基づいて、生物多様性評価を行うための新たな生物指標を開発する。	26-28年度	P28
計	21 課題			